

第3期 アクションプランについて

1. 新しいスタイルの **花の文化** で深化・発展



こまつのスタイルづくり

「常に花があり、それが気持ちに現れ、まちづくり地域づくりに現れる」このような花の概念を市内全域に、そしてまちかどに広める。また、伝統や文化など地域資産を花と融合させ次世代に引き継ぐもの。

- まちかどフラワーの選定
- 花き産業の振興
- 花の文化づくり（ハーベスト花壇）

1-1 まちかどフラワーの選定

新

春と秋の花苗配布時に合わせ、春は「フローラルこまつセット：ニチニチソウ」、秋は「歌舞伎のまちこまつセット：ビオラ」推進花を加え、お旅祭りや花のコンクールの時期に花壇の彩の統一を図る。

一年草



ビオラ（オレンジジャンプアップ）



ニチニチソウ（ピンク）

多年草

5月



シャクヤク

8月



ナツアイセン

10月



カンナ



オオハシゲイソウ

5月：お旅祭り、8月：花コンクール、10月：どんどん祭り

1-2 花き産業の振興

- ・ 推奨花の栽培、受注は市内農家に限定し、花き産業を盛り上げる。
- ・ 農家に持ち回りで栽培委託するなど、生産・供給の拡大を図るとともに、農家が花栽培の指導者となり、地域の花のまちづくりをサポートする。

- 花きの消費拡大に向けて、若い方の購買意欲の向上
- お盆、彼岸など大きな需要だけでなくフラワーバレンタインや人生の節目やライフイベントなどで花の需要を創出
- いけばな等の花きに関する伝統を継承
- 一人一花運動の推進（学校フローラル）

魅力ある美しい景観を誘導、花卉の生産・需要の拡大を図る



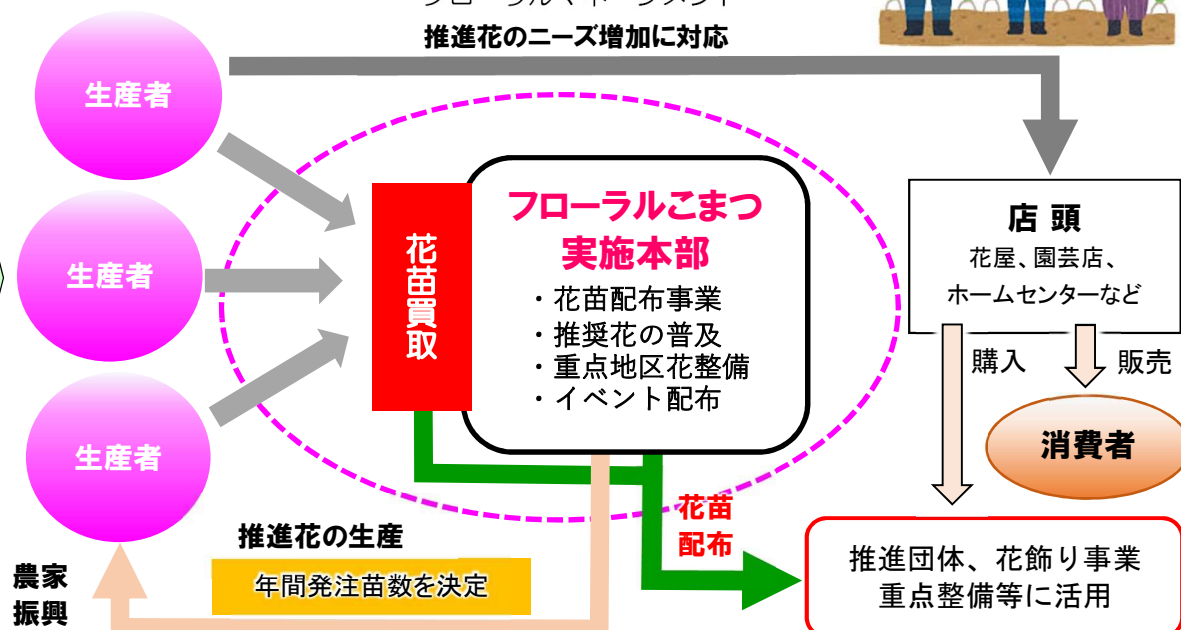
高校華道部による
「曳山華舞台」の生け花

フローラルこまつ 花卉産業の振興のしくみ（案） 生産者と市民を結ぶ



事前

推奨花生産者調査（募集）



生産・消費を通じて、地産地消の花の循環が、SDGsの実現を図る

推奨花種類	開花	形態	樹高	日照	耐寒性	耐暑性	栽培	増やし方
ピオラ	10～6月	一年草	10～80cm	日当たりと風通しのよい場所	強い	弱い	やさしい	種から増やせます
ニチニチソウ	5月～11月		10～30cm	日当たりと水はけがよい場所	弱い	強い	やさしい	種から増やせます
シャクヤク	5月～6月	多年草	60～120cm	日当たりと水はけがよい場所	強い	普通	やや難	株分け
ナツズイセン	8月		50～90cm	日なた～半日陰の場所	やや弱い	強い	やさしい	自然分球
カンナ	6月～10月		40～160cm	日当たりと水はけがよい場所	やや弱い	強い	やさしい	根茎を分割（冬越し難）
オオベンケイソウ	9月～10月		25～80cm	日当たりの良い場所	強い	強い	やさしい	株分け、挿し芽

目標
数値

2024年 F値(floral値) = 1.0以上
人口一人当たり花苗数 [R3.1末=0.8]

新

108,000株を目指す
22,000増加



F値=0.80

5,500UP

2024年 5,500UP
2023年 5,500UP
2022年 5,500UP
2021年 5,500UP

2020年 年間配布数: 86,540 株 , 人口: 107,730 人

Ⅰ-3 花の文化づくり（ハーベスト花壇）

新

- ・新しいこまつの花スタイル「ハーベスト(収穫)花壇」整備を促進する。
(市民参加型、オーナー制度、事業参加型ふるさと納税などの活用)
- ・ラベンダーやハーブ(伝統的な和のハーブ:シソ、ユズ、サンショウ、エゴマなどを継承)、薬草など香りある花摘みができる花壇の整備を推進する。
[木場潟公園(周辺)、小松空港周辺(旧グリーンセンター活用)、大倉岳高原スキー場、憩いの森など]

ハーベスト花壇イメージ（ラベンダー畑）



スティック

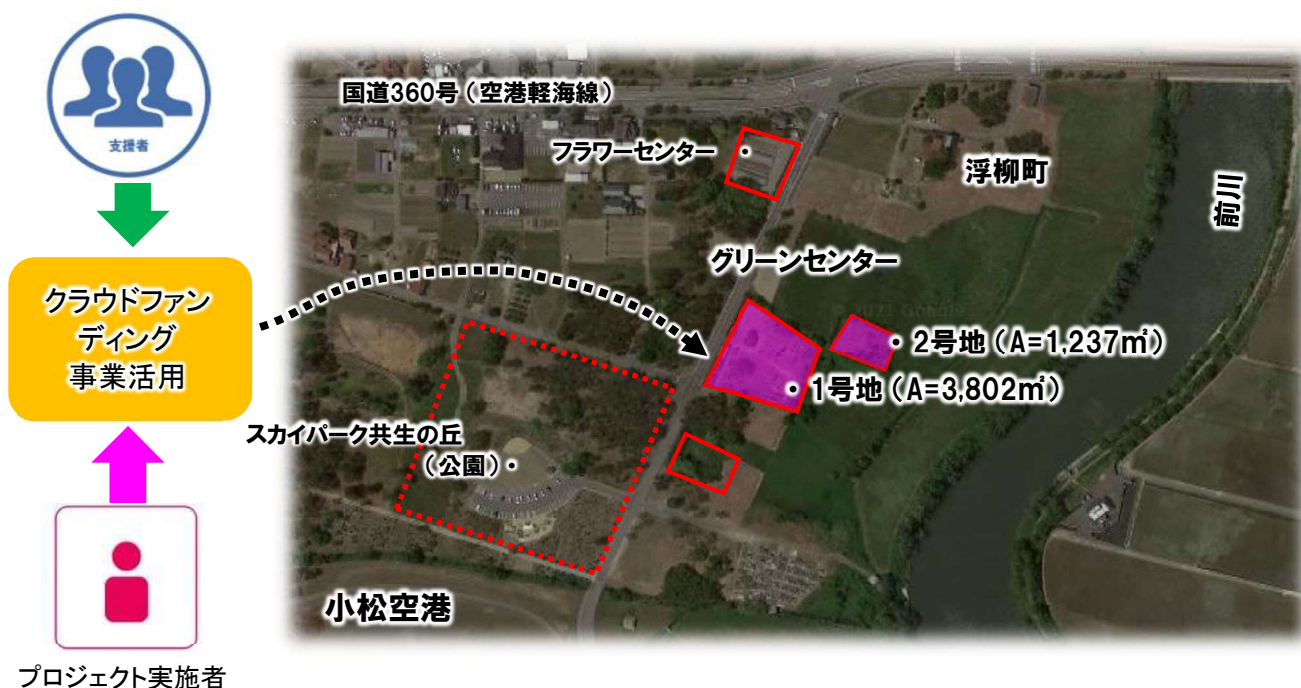


ポプリ



《ハーベスト花壇を活用した取り組み(案)》

- 季節のハーブ摘み取り体験、クラフト、商品開発
- リースづくり体験(畑で取れたドライの素材を使って、季節を香りを感じる)
- ラベンダーを使った体験教室(せっけんソープづくり、ポプリ(サシェ)づくり、スティック(バンドルズ)づくり、ハンカチ染めなど)
- (仮称)ハーベストクラブ‘RELAX’の組織・運営化



I-4 花守が美しいふるさとを引き継ぐ

花で唐く

・花守の活動は、四季折々の花や木の植栽などふるさとづくりに花と緑を活かす運動としてふるさとの景観を保全し、美しい街並みや花の文化を守ります。

また、地域との協働による花と緑のまちづくりの活動を進め、潜在的な地域資源の魅力を花で活かし、次世代に引き継ぎます。[2期プラン継続]

[木場湯桜回廊や水生植物、う川古代桜、松岡町の千恵子桜、ロードパークなかうみの里芝桜、遊泉寺銅山跡公園シャガなど]

❖『芝桜のふるさと』づくりイメージ図



う川古代桜



遊泉寺銅山シャガ



中海ロードパーク芝桜



木場湯公園花ハス

○ 里山の自然の風景を再現する「ナチュラルガーデン」づくり

[滝ヶ原町の石橋、遊泉寺銅山跡地、尾小屋銅山跡地など]

● 小松市指定天然記念物の保全

[布橋町のミズバショウ自生地、中海町、正蓮寺町のカタクリなど]

○ 自然の力を活かしたナチュラルガーデンで交流

[里山地域の花咲く庭先の見頃を登録・発進]

● 大学や企業と連携しふるさとの花と緑の再生

[CSR活動等、観光資源の創造と活性化、こまつ里山SDGs倶楽部との連携]



滝ヶ原町の石橋（西山橋）



栗津おっしよへ広場

効果

魅力ある美しい花景観を誘導、花卉の生産・需要の増大と後継者の育成

1. 新しいスタイルの **花の文化** で深化・発展



地域の未来と花庭を創る



育てよう、思いやりの種。咲かそう、やさしさの花。

やさいいまちこまつ

幼少期から花に親しみ情操を育む活動を学校と地域がともに行う花壇「未来の花庭」を設置し、地域のつながりを増す「花育」活動を推進し次世代に花のまちづくりの活動を引き継ぐもの。

- 花育スマートガーデン整備「未来の花庭」
- 地域学校協働活動の推進

10年後、20年後の地域を今つくる

Ⅱ－1 花育スマートガーデン「未来の花庭」整備

新

花や園芸に関心を持つ、園児や小学校の児童を主な対象として、専門的なものも含む園芸、花づくりの面白さ、楽しさが体験できる支援を進める。花壇づくりを通じ「楽しむこと」を重視するとともに、活動の場も安全が確保できる校庭を主とし、将来的には地域内の公園や公的な施設の庭等の積極的な活用も図る。

地域の方々が主となり子供たちと一緒に花育を展開し、学びのエリアに地域花壇をつくることで、学校を拠点に個性的な花環境をつくり、地域のガーデンと結んでいく仕組みができる。

花壇にはIoTを導入した散水システムで効率化と花づくりの見える化を図り、園児、児童が花に興味を持つことで、次世代に引き継ぐ花のまちづくりの心を育てる。また、花を植えるだけでなく花を育て、五感を使って花と緑に触れられるよう、子どもたちや地域の指導者、保護者など共創で維持管理していく。

子供達の身近に花壇があることが、関心や情操、愛着心を育み、花育となる

学びのエリアと 地域をつなぐプロジェクト 「未来の花庭を整備」



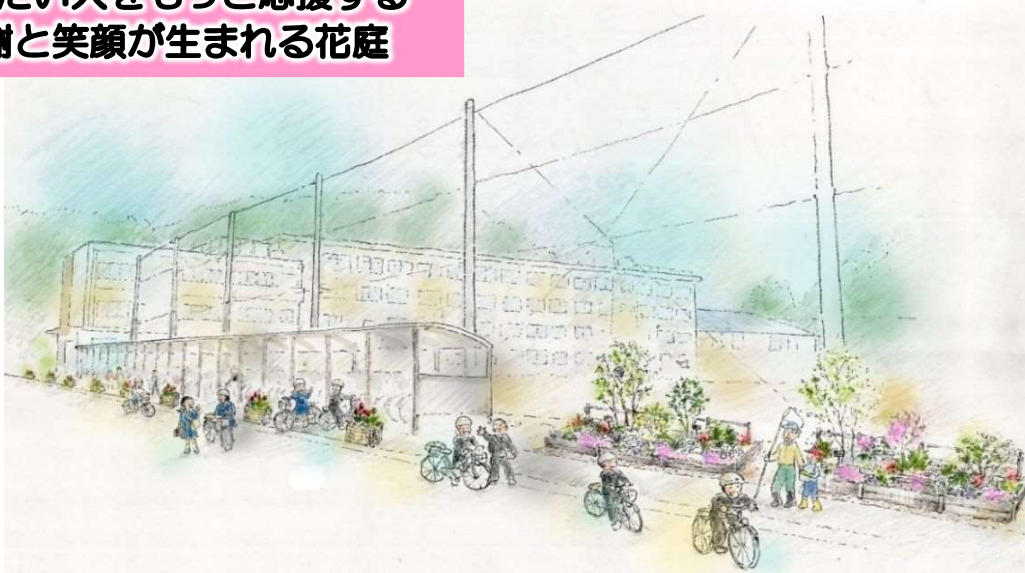
☆ 新たな花庭の機能は、

- 子供達と住民の身近な活動拠点
 - ・地域や団体の活動拠点
 - ・コミュニティ活動の拠点
 - ・学校と共同の行事等の開催
- 学習・教育の拠点
 - ・生涯学習の拠点
 - ・学校教育、学校運営への地域参加

☆ 期待される幸せ効果は、

- 学校施設の有効活用
 - ・学校が地域のみんなの施設として、新たな機能・役割で活用
- 学校教育の多様な展開
 - ・児童が明るい、挨拶が良くできる、集中力が長続きする、人や生き物に優しくなる、学力が高まる
- まちづくりの展開
 - ・住民間の連携や地域活動の発展、次世代への花のまちづくりを引き継ぐ

やりたい人をもっと応援する 感謝と笑顔が生まれる花庭



花づくりはひとづくり

☆地域参加型の学校づくりで大切な視点は、

20年後も「やさしいこまつ」「花のまちこまつ」となる人と地域づくり

○ 地域が共に学校を利用し、子供たちの教育を支える立場で参加する

学びのエリアでの地域参加型のプロジェクトは、行政や専門家と教職員や保護者などの学校関係者に加え、地域が積極的に参加するという視点で、単に行政や学校の関係者だけが進めるのではなく、地域住民も共に学校を利用し、子供たちの教育を支える立場で参加することが重要となる。

未来の花庭の進め方(案)について

- ① 参加校、地域の活動者を募集
- ② 学びのエリア調査（学校活動箇所の選定）
- ③ 花育プログラムの検討（参加学年や内容）
- ④ 「未来の花庭」設計
- ⑤ 花壇整備（工事）の実施



相互
協力
体制

地域協議会な
ど各種団体と
協力を強化

○ IoTを活用し、保育時期（ナースリースクール）と小学校時期（スクールガーデン）

の花育実践花壇を新設し地域や校下の新しい花のシンボルとする。

○ スマートガーデンを推進する装置（水分量測定、除草ゴミ箱、自動散水機等）などを

設置して、環境学習や育苗と花壇づくりの効率化と省力化を図る。

○ 地域協議会（見守り組、シルバー）や各種団体との連携を組織化し活動に対して支援する。

○ 花育プログラムのマニュアル化（小学校カリキュラム参照）を作成。

○ 一人一花づくり「マイフラワーづくり」で屋内外の花育を推進する。

〔花鉢プレゼント⇒日ごろお世話になっている親や祖父母などへ〕

やる気いっぱい、元気いっぱい

次世代に引継ぐ花の文化

やさしい地域の地域づくり

Ⅱ－２ 学びの花緑協働活動を推進

【学びのエリアが地域の拠点となり、地域全体が学習環境になる】

地域学校協働活動の推進は、地域協議会や地域の高齢者、成人、学生、保護者、PTA、NPO、民間企業、団体・機関等の幅広い地域住民等の参画を得て、地域全体で子供たちの学びや成長を支えるとともに、「学校を核とした地域づくり」を目指す。

- 学びの場所が広く子供の居場所となり、地域で子供は学ぶ
- 地域の人々も学校に集い、学び、皆で子供を育てる
- 学びのエリアがフルに活用され、コミュニティの醸成に繋がる
- 子供や大人が学び合い、成長し合える持続可能な花の地域づくり



10年後、20年後も美しい花のまちこまつであり続けるために



持続可能とレベルアップ

Ⅱ－３ 心を豊かに育てる花育活動「花楽校」の推進

花づくりや花壇の手入れなど様々な花や緑に関わる活動は、子どもからお年寄りまで幅広い世代の人達が参加することができます。フローラルこまつは、花や緑を育てることを通じて市民相互のつながりや花や緑を大切にする文化や大人も子供も心を豊かに育てる「花育」を推進します。

花に関わる基礎から応用学ぶ「花楽校」では、学ぶ楽しさと分かる喜びが実感でき、花好きの交流やコミュニティづくりに活かされます。

✿花の育て方基礎講座

✿ガーデニングワークショップ



✿花育教室[こまつの杜]

✿園芸学び会

✿園芸スクール

- 五感で感じながら、子どもたちが楽しく学ぶ花育教室の推進(こまつの杜花育活動)
- 子どもたちが育てた花苗を社会福祉施設や外のこども園へ贈る。花の社会性を実現する。

効果

次世代に引継ぐ花文化の定着
(やる気いっぱい、元気いっぱい、やさしさいっぱいの地域づくり)

1. 新しいスタイルの **花の文化** で深化・発展

III

駅と花文化

小松市の玄関口となる駅や空港など顔となる場所で、小松市の花文化と花のまちづくりをアピールする。

(小松駅、明峰駅、栗津駅、小松空港、小松インター)

※空路・鉄路・道路による北陸随一のアクセス箇所での花のまちづくりをPRする。

- 市民・企業共創デザイン花壇
- グリーンパートナー花壇

コンコース内
曳山華舞台PRブース

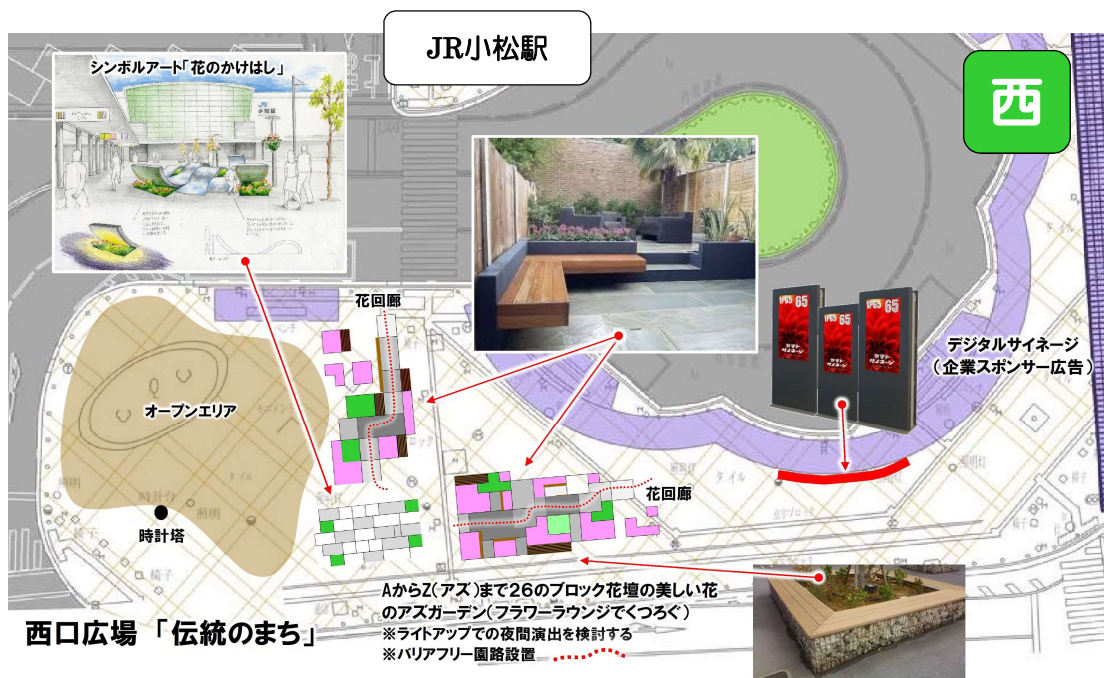


Ⅲ-1 花文化と共創花壇（みんなの花壇）

花で歓迎するホスピタリティー

新

- ・ 市民が花壇づくりを通じて、見てもらえる楽しさや活動のやりがいを感じる空間をつくる。
- ・ JRの各駅や空港、高速道路のICなどまちの玄関口を花で彩り、おもてなしの気持ちで花のまちの印象を付けます。
- ・ 人が集まる空間を活用することで、若者から来松者までまち全体に幅広い情報を発信することが可能となる。(SNS等で活動を発信)
- ・ ユニークな花壇のデザインやニックネームの掲示で、参加者の意識を高めてもらう。
- ・ 来訪者をお迎えする市民のホスピタリティー（おもてなし）を花で表現する。



✿ 市民共創花壇 ✿

JR 小松駅西口広場での展開を想定。市民交流の花活と位置づけ、市民の方に花壇づくりや管理にかかわっていただき、市民共創花壇の象徴とする。デジタルサイネージなどのデザインも含め企業が応援できるスタイルとする。

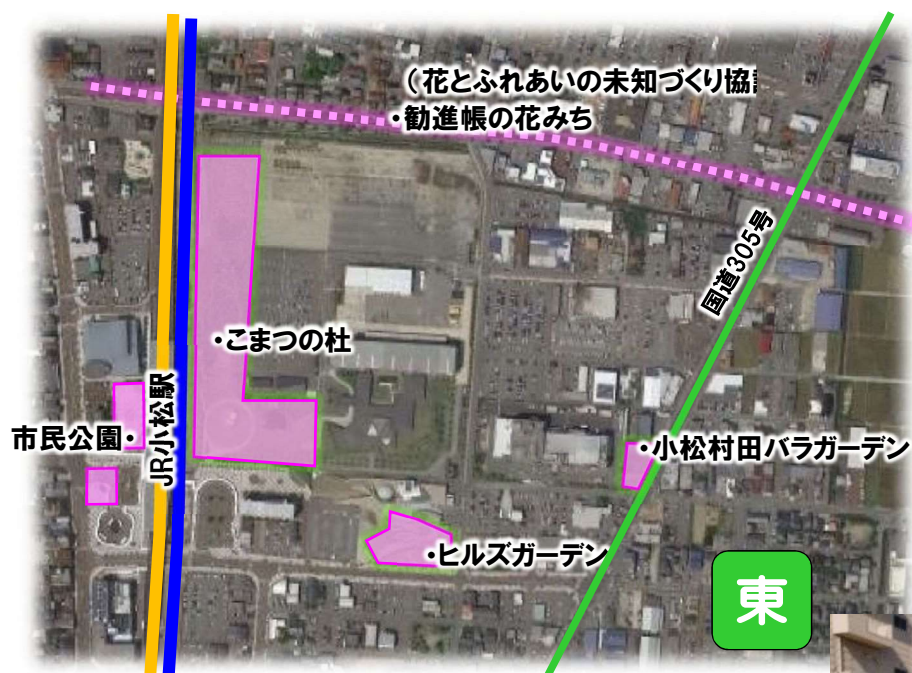
Ⅲ-2 グリーンパートナー花壇（企業スポンサー）

企業等との協働による花のまちづくりの推進

- ・フローラルこまつの活動支援のための応援制度（フローラルこまつ応援金：寄付）
- ・フローラルこまつをプロモート（促進）するサイン展開+企業広告を活用
- ・ネーミングライツを活用した花の広場整備の推進（駅西：市民公園など）
- ・屋外灯やシェルター等の柱で花灯りを活用し花装飾



花灯り(HB)



勸進帳の花みち



こまつの杜



ヒルズガーデン



小松村田バラガーデン

花のまちを美しい姿で次世代に継承するには、持続的な花づくりが不可欠ですが、行政や地域主体の取り組みだけでは対応できる範囲に限りがある。

そのため、花のまちづくりに関心の高い、市民や企業など幅広く花壇整備や花の管理に係ることができ、機会をにぎわいのある駅周辺で創出し、市民共創の花のまちづくりを小松の玄関口から国内外へ発信する。

市民や企業等の協働における駅の花づくりの考え方

- 小松市の玄関口となる小松駅周辺は人口が多く、企業やNPO、大学、研究機関等が数多く存在する利点を十分に活用し、多様な主体が協働した花壇づくりを展開する。
- 花のまちづくりの有する機能は、癒しやストレスの軽減など市民生活に貢献することから、市民に対し、花との関りの必要性和メリットを発信し、積極的な参画を推進する。
- 資金面での支援に加え、企業の製品や使用している器具を活用するなど様々な形での支援を受け入れる仕組みを構築し、市民力、企業力を一層活用した協働の花壇づくりを進める。

Ⅲ－３ 花舞伎のまちをつくる

- ・初夏のこまつは祭りと花でまちが花舞台となる
- ・曳山子供歌舞伎当番町の通りを彩る和の花道
(地元町内会, こまつ町家認定邸, 商店街などと連携)【2期プラン継続】

歌舞伎の定式幕をイメージする『黒、赤、緑』の花色を統一する



❖花舞伎のまちイメージ図



シャクヤク



ビオラ (オレンジ ジャンプ アップ)

❖町家の花飾り



小松市の推奨花で彩る (5月)



❖曳山華舞台

効果

際立った北陸の花によるおもてなしの実現